

# 築山社福協だより

第26号

平成12年11月10日  
築山地区社会福祉協議会  
会長 高桑 博



## 地域福祉のために役立たせていただきます

取 入 築山地区社会福祉協議会 平成11年度決算及び平成12年度予算 単位:円

科 目	11年度予算額	11年度決算額	12年度予算額	備 考(12年度予算に対する説明)
1 会 費	874,000	677,900	978,000	
2 共同募金一般配分金	739,155	739,655	711,753	平成11年度共同募金の実績による配分
3 共同募金特別配分金	52,582	57,500	55,300	地区組織活動推進費
4 友愛訪問事業費交付金	163,300	163,300	163,300	地域福祉活動メニュー-選択事業助成金
5 助 成 金	318,200	198,600	381,800	地区助成金 368,000 社協だより 13,800
6 補 助 金	1,495,000	1,522,300	1,560,000	敬老会補助金 1,300円×1,200人
7 寄 付 金	100,000	430,000	100,000	
8 諸 収 入	10,000	7,288	10,000	普通預金及び定期預金利息他
9 繰 越 金	1,423,535	1,423,535	1,574,867	平成11年度からの繰越
合 計	5,175,772	5,220,078	5,535,020	

支 出 単位:円

科 目	11年度予算額	11年度決算額	12年度予算額	備 考(12年度予算に対する説明)
1 会 議 費	170,000	152,951	170,000	総会、役員会、理事会他
2 事 務 費	200,000	78,298	200,000	印刷、コピー、通信費他
3 老 人 福 祉 費	2,125,000	2,068,935	2,210,000	敬老会 2,040,000 老人クラブ助成 170,000
4 児 童 福 祉 費	160,000	160,000	160,000	児童館100,000 城南園 20,000 子供会40,000
5 災 害 援 護 費	20,000	0	20,000	
6 研 修 費	50,000	31,920	500,000	先進地視察研修、6地区役員研修他
7 助 成 費	226,000	225,000	226,000	地区内8団体に助成
8 広 報 費	350,000	305,521	350,000	社協だより2回発行
9 慶 弔 費	50,000	10,000	50,000	
10 特 別 事 業 費	250,000	167,786	250,000	ひとり暮らし激励訪問、母子父子家庭激励訪問
11 市 社 協 納 入 金	712,000	444,800	857,000	市社協会費 828,000 特別会費他 29,000
12 予 備 費	862,772	0	542,020	
合 計	5,175,772	3,645,211	5,535,020	

※ 上記の外に基金として3,000,000円の定期預金があります。(北都銀行榊山支店)

### 会務報告

- 四月二十九日 定期総会を築山児童館で開催し、平成十一年度事業報告、同決算、平成十二年度事業計画、同予算及び役員改選について協議決定した。
- 五月一日 日赤社員増強運動の推進。
- 募金実績 一七三万七五〇〇円
- 五月十二日 地区内福祉関係諸団体育成のため、助成金を贈った。
- 六月十二日 市塗装研究会の皆さんの奉仕により、五軒の屋根塗装をしていただいた。
- 六月二十日 理事及び評議員に委嘱状を届けた。
- 八月五日 役員会を開催し、敬老会について協議した。
- 九月十六日 恒例の地区敬老会を榊山コミセンで開催した。対象者 一、二二三名 出席者 一八三名
- 式典終了後、築山小学校児童による歌や竿燈の演技、みどり幼稚園やみどり保育園児の歌や踊り、歌要会の皆様による歌謡曲などで賑った。
- 欠席者には、肩掛けを贈呈した。
- 九月三十日 赤い羽根共同募金説明会を開催した。
- 十月一日 共同募金(赤い羽根)運動の推進協力。

### 善意の(ご)寄付

- ◎ 篤志 東海林 正 隆様 一万円
- (平成十二年四月一日)
- ◎ 平成十二年十月三十一日

### 編集後記

◆ 築山社福協だより 第二十六号をお届けします。年発行二回を建て前として、今回は四頁とし、敬老会特集号としました。A3版の見開きとし、写真をふんだんに使用してみました。少しでも読者の皆様に敬老会の雰囲気伝われば幸いです。次回回は六頁の予定です。したがって、地域活動の紹介は次回特集とします。地域の皆様にお知らせしたい情報がありましたら是非ご連絡ください。

◆ 介護保険もいよいよ本番となり様々な状況が考えられてきます。一層の協力・助け合いが必要となります。

保険制度も必要ですが、ひとり暮らし世帯や高齢者のみの世帯が増え続けており、普段のちよつとした親切や声かけが益々大事になると思います。皆様のご提言をお願いいたします。

編集責任者 樋渡 久孝  
編集委員 加藤 三夫 黒崎 寅雄  
連絡先(事務局) 神田 武  
樋渡 久孝 神田 武

### 榊山オツツアンと助け合い

築山地区社会福祉協議会 会長 高桑 博

築山地区には地区特有の「ふれあい」活動があります。「榊山オツツアン」の気風が脈々と流れていて、私の父もその一人であった。「榊山オツツアン」とは気骨ある明治生れで榊山(現築山地区)の地区を愛し地区発展のため損得なしの徹底して奉仕するおじさん達の愛称で、今風という気骨あふるボランティア人です。なにも今は明治生れと規定する必要はありません。大正生れでも昭和生れでも榊山オツツアンは継承され随所にその力を発揮しています。素晴らしかった敬老会の舞台裏での活躍、それを支えて下さる御婦人達、大讃辞を受けた築山小学校竿燈クラブも発足当時必死に指導し、また物心両面に渡って援助したのも榊山オツツアンであった。榊山地区は下級武士の町であり足軽の町でもあった。隣近所助け合いなければ生活そのものがなりたたなかった。また大雨になれば、すぐ太平洋川が氾濫し、榊山の「ケツ冷し」といわれた程、水害は毎年の如く起る。御飯は炊けない、共に生きるためには助け合わねば生きられない地区でもあった。自然に身についたボランティア精神をもつ榊山オツツアンであったが反面、少しでも人間の道にはずれるような行動には他人の子供であろうが徹底して叱った怖いおじさんでもあった。

二十一世紀は「孤」の時代と云われています。孤独の孤、孤立の「孤」それは少子高齢化が進むほどにおお深くなり、現に一人暮らし老人は急速に増え続けており、子供がおっても「孤」は存在します。ある病院の薬局に毎日来て昼にはパンを食べ午後三時頃に帰って行く老人がいた。病気でもないのになぜという事で、プライバシーをおかさないう程度に調査したら、この老人、地方の田舎で生活しておったが、妻に先立たれて一人暮らしとなった。一人息子は親孝行で孫もいることだし一緒に住むことになってマンションに移り住んだ。まだマンションのローンが残っているの息子も奥さんも働いている。或る日老人の部屋の新しい畳にタバコの焼け跡が見つかった。火事でも出されたら大変なことになると家族会議の結果、嫁さんが家を出る時、玄関の戸に鍵を掛け、孫は保育園、老人は病院へと通うこととなった。「孤」は天涯孤獨と云う孤でなく家族がおっても「孤」は存在する。福祉への奉仕は共に生きる、共存する、世の中に無価値な人はいないのです。

介護保険制度も始まりました。しかし該当者と健常者との谷間にある数多くの方もおられます。

「共に生きる安心して暮らせる町づくり」築山地区社協はそのためにも多くのふれあいをもちながら助け合わなければなりません。

脈々と流れている榊山オツツアンの気風もあるではありませんか。

# 平成12年度 築山地区敬老会

百歳をこえられた方が  
3人もおられます



右 高桑会長のご挨拶  
左 会場への案内風景



式典のひとこま



故郷を会場のみならず一緒に、すばらしい  
喉を披露してくれた寿コーラスのみなさま

夏を思わせるような残暑の厳しかった去る九月十六日、恒例の地区敬老会が植山コミセンで盛会裡に行われた。  
対象者は千二百二十三名、出席者百八十三名。  
はじめに高桑会長のお祝いのご挨拶、ますます健康で長生きされますよう激励され、同時にこの築山地区には百歳を越えられた方が三人もおられる長寿の町でもあると述べられました。  
そして「誰でも安心して暮らすことのできる福祉の町づくり」を目指して頑張ってくださいとおっしゃっていただきました。  
続いて築山小学校校長鈴木正矩校長より心あたたまるご祝辞をいただき、集まったみなさんを代表して、登町在住の七尾四郎様から謝辞がありました。この中で同氏は誰からも好かれる老人にならなければならぬと述べていただきました。  
そして植山交番宮田好夫所長の乾杯の音頭の後、昨年シルバークラスの合唱で祝宴が始まりました。みどり幼稚園、みどり保育園の園児による歌やお遊戯のほか、絞り染めの和紙のケースに入ったポケットティッシュやクッキーなどの贈り物までいただきました。築山小学校一年生のダンスや竿燈クラブのみなさんの竿燈の演技と続きました。  
これまで飲み物を口に運んだり、お隣同士会話を楽しんでおられた方も竿燈の演技が始まると、



来年も元気で再会を誓った  
鈴木氏の万歳三唱



七尾氏の謝辞



交番所長の乾杯



校長先生の祝辞



今年も参加者一人ひとりに  
プレゼントをいただきました

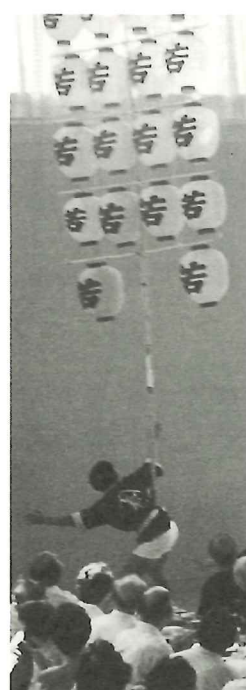
会場の誰もが一点に目を吸いつけられて感心して見惚れておられました。  
続いて伊藤要先生が会を務める歌要会の皆様の歌謡曲となりました。NHKのど自慢大会で鐘を三つ鳴らした方も多く居られる同会の皆様の唄とともに祝宴も大いに盛り上がりを見せ、和気あいあい心ゆくまで交流を深め楽しんでいただきました。  
また築山小学校の一・二年生の子供達から、おじいちゃんおばあちゃんに宛てたかわいいお手紙、築山児童館を利用している子供達からは、押し花を飾ったともすてきな壁掛けが贈られました。最後に寺小路在住の鈴木勇吉様の万歳三唱で再会を願って散会しました。  
この敬老会開催にあたり、福祉協力員、民生委員、社協役員のみなさんには大変なご協力ご奉仕をいただき、心から感謝いたします。  
また、たくさんの方々からご芳志をいただき厚く御礼申し上げます。



祝宴に花を添えていただいた伊藤要  
先生が会主を務める歌要会のみなさま



今年の敬老会において  
いただいた地区の  
みなさまのワンシーン



築山小学校竿燈クラブのすばらしい演技



左 竿燈クラブの太鼓

右 受付風景

今年もかわいいお遊戯を披露してくれたみどり幼稚園のこどもたち

